

北海道独自の商品開発を！ 道立総合研究機構の活用で質問

2010年度に道の22の試験研究機関が統合され地方独立行政法人北海道立総合研究機構＝道総研が設立されました。旭川市内には北方建築総合研究所と林産試験場があり、木造建築での活用が期待され全国で注目が集まっているCLT(直交集成板)の製造研究をはじめ、様々な成果を上げています。道総研は15年度から第2期中期目標がスタートしており、次の目標に向けて総合力を一層発揮し分野横断的な取り組みをさらに進めていくことが必要となります。今後の取り組みについて道に答弁を求めました。



旭川市の林産試験場で製造研究が行われている CLT

道は、分野横断型の戦略研究では、農業試験場や食品加工研究センターなどの連携による「道産小麦を利用したパスタ」の商品化のほか、北方建築総合研究所、林産試験場、林業試験場、工業試験場などが連携して「カラマツ材のねじれを防ぐ乾燥技術」を開発し、民間住宅への普及を図るなどの成果を上げていることを強調。第2期中期目標で、北海道の特性を生かした食産業の振興や食料の安定供給などのほか、環境と産業・生活が調和した持続可能な地域社会構築へ資源の循環利用などの研究を重点化し、総合力を生かした研究開発や技術支援を更に進めていくと答えました。

戦後70年の節目に核廃絶と不戦を誓う



旭川駅前街頭演説

終戦から70年の記念日を目前にした8月12日、旭川駅前5人の市議と共に街頭演説を行いました。5月の核不拡散条約(NPT)再検討会議では核軍縮の最終文書が不採択に終わりましたが、引き続き核廃絶に向けて取り組むとともに不戦を誓い国民の生命・自由、幸福追求の権利を守り抜く決意を訴えました。

プロフィール

1960年十勝管内本別町生まれ。北海道新聞社に入社し旭川支社報道部記者、岩内支局長、文化部次長、東京メディア委員などを経て編集局編集委員で退社。2011年4月に公明党から北海道議会議員初当選。道議会では経済委員会理事、

産炭地域振興・エネルギー問題調査特別委員会理事、建設委員会理事、少子・高齢社会対策特別委員会理事を経て、15年5月から総合政策委員会理事、食と観光対策特別委員会理事。公明党で15年6月から党道本部副幹事長、政策局事務局長、広報宣伝局長と旭川総支部長を兼任。